

中学校区におけるめざす子ども像 《鳳校区のめざす子ども像》:思いやりをもち、自分も他の人も大切にし、認め合える人

堺市立 鳳 小学校
校長 角野 兼太郎

令和7年度 学校教育目標「自ら学び 心豊かにともに育つ」 学校重点目標「認め合い 助け合い 学び合う」 キーワード「対話 あいさつ なかま」

確かな学びの現状 本校では、令和2年度から生活科・総合的な学習の時間を研究の中心に据え、社会的実践力の向上に重点を置いて問題解決型の授業を意識した学習を進めてきた。昨年度は、子どもとのめあてづくりを大切にしつつ、よりよく解決に向かおうとする姿勢を育てるため、子どもと子どもの対話を増やす「学び合いタイム」を取り入れた授業づくりを行ってきた。みんなで学ぶことが楽しいと思える授業づくり、集団づくりをめざしている。現状としては、みんなで学ぶ楽しさを感じている児童が多いが、話す・聞く力は全国平均に比べて低い数値となっている。そこでコミュニケーショントレーニングを実施したり、普段の授業から話し合う時間を積極的に取り入れなら学習を進めて学力向上をめざしている。また、カリキュラムづくりにも力を入れ、生活・総合を軸にして他教科との教科横断を考えた計画づくりをしたり、児童の思いを実現できるように計画をしたりすることで、子どもたちの満足感にもつながり、生活・総合の時間が好きと感じている児童が8割となっている。	豊かな心の現状 指導を継続し、あいさつが習慣づいている児童が増えた。児童アンケートの「自分からすすんで挨拶をしている」の項目では肯定的な回答が86％、保護者アンケートの「子どもはすすんであいさつをしている」の項目でも肯定的な回答が78％であった。加えて、地域の方からも「あいさつをよくしている」という評価をいただくことができた。昨年度、「ありがとう」などの種類を増やすことに取り組み始めたため、今年度も継続してあいさつの種類が増えるよう取り組んでいく。あいさつの種類を増やすことで、相手を認め、尊重する心を育てたい。ルールやきまりについては、児童のアンケートの結果は廊下歩行で83％、きまりを守るで91％と肯定的な意見が多いが、廊下を走っていてけがをするなど、状態には課題がある。ルールやきまりを守る大切さに気付ける指導を継続する必要がある。 健やかな体の現状 本校は運動場が狭く、休み時間に体を動かす機会が少ない。また、学校の体育の授業以外で、運動をする機会があまりない児童も多い。そのため例年スポーツテストの結果は、堺市平均を下回る項目が多い。その中でも反復横跳びは全学年が堺市平均を下回っており、2学年以上下回っている学年もある。そのため敏捷性を中心に、体力の向上を養う必要がある。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (2学期中)	達成状況(年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	授業改善	・問題解決学習による考える力の育成	●子どもと子どもの対話を増やす授業づくりに取り組む。	・校内授業研究、校内研修会での討議 ・児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80％を上回る。 「授業で、自分の思いや考えを伝えている。」 「先生や友だちの話をしっかり聞いている。」 「生活・総合の勉強が好きだ。」	・協議 ・児童アンケート	年度末	・1学期に作成した低・中・高の「対話でめざす子ども像」に近づくために、各学年で計画しながら話し合う機会を授業中に多く取り入れることができた。 ・各教科の年間指導計画を参考にしながら総合と各教科を横断するカリキュラムづくりを行うことができた。				
		・ICTの活用を推進する	生活・総合を軸にして、各教科で対話力を高めるカリキュラムマネジメントを推進する。 ★授業において、児童用パソコンを活用する。	学習で児童がパソコンを週2回以上活用する。 児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80％を上回る。 「学校で自分用のタブレット(パソコン)を使って学習するのは楽しい。	・児童アンケート	年度末	・中学年は総合や図工のふり返しなどを中心に、週2回以上の活用ができています。 ・高学年は総合や専科の授業を中心に各教科で週2回以上の活用ができています。				
	基礎学力	・対話力の育成	コミュニケーショントレーニングを実施する。	児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80％を上回る。 「コミュニケーショントレーニングで話したり、聞いたりすることに楽しく取り組んでい	・児童アンケート	年度末	・各学期に1回以上どの学年もコミュニケーショントレーニングに取り組むことができた。				
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	・互いを認め合い、助け合う仲間づくり	●あいさつをできるよう、また「ありがとう」などのあいさつの種類が増えるような取り組みを推進する。	児童アンケートの「あいさつ」に係わる項目で肯定回答が90％を上回る。	・児童アンケート	年度末	・あいさつの取り組みを通して、自分からあいさつができる児童が増えてきているように思う。また、教員に対して「おはよう」や「さようなら」とあいさつをする児童が増えている実感がある。しかし、子どもたちどうしのあいさつや「ありがとう」などの感謝の言葉は、まだまだ自分からできる児童は少ない。「おはよう」「さようなら」以外の挨拶ができるような取り組みを考えていく必要がある。 ・「鳳人權の日」では、その月のテーマごとに学習を行い、人権教育の理解を深めるようにした。「鳳人權の日週間」にそれぞれの学習を行うことで、子どもたちの人権意識を高めることができた。 ・児童アンケート「ふわふわ言葉を意識して使っている」が1学期86％、2学期85％となった。ふわふわ言葉の取り組みを学期に一回行うことで、意識づけができ行動につながった。				
			学校いじめ防止基本方針や人権教育計画をもとに互いを認め合う集団作りに取り組む。	児童アンケートの下記項目で肯定的回答が90％を上回る。 「人が困っているときは進んで助けている」							
			鳳人權の日を通してのつながりの充実	児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80％を上回る。 「ふわふわ言葉を意識して使っている」							
	体力向上・健康	運動に親しませるとともに、体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。	●体育集会「なわとび検定」を通して、体育授業時・休み時間・放課後・休日等に児童自らが「運動をしよう！！」「もっと運動がしたい！！」という意欲につなげる。	・休み時間のなわとびタイムの参加状況 ・児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80％を上回る。 「休み時間や放課後に、積極的に運動している」	・児童観察 ・児童アンケート	随時 年度末	・朝の縄跳びタイムの参加率は昨年度よりも高い。開始を10分遅らせたこと、教室に音楽が聞こえることもよかったのかもしれない。 ・低学年 中学年の児童は積極的に朝の縄跳びタイムに参加している児童が多い。休み時間も自主的に縄跳びの練習をしている児童がいる。 ・高学年は、体育の初めに帯で時間をとったり体育大会の種目にリズム縄跳びを取り入れたりすることで、体育の授業時間から休み時間などでの積極的な運動習慣へつなげる取り組みを行っている。 ・ふたばでは、各科の時間にリズム縄跳びを取り入れている。				
子ども理解	特別支援	個に応じた支援体制づくり	子ども支援委員会で支援体制・支援方法を検討、工夫する。	支援体制・支援方法を計画通りに進めている。	・自己診断	年度末	・子ども支援委員会を定期的開催することで、計画通りに進んでいる。また、相談までのアプローチやフィードバックの方法を見直し実践している。 ・学級で使えるUDについて校内研修を行い、UD化について共通理解を図った。校内の歩き方を視覚的に分かりやすくした。(廊下の矢印を新しくした。)				
		学校環境のUD化		学習環境の整備を行う	・実績報告	年度末					

校長より(年度末)

学校関係者評価者から(年度末)
